

共立女子大学文芸学部報

文芸学部報 第二一九号
編集責任者 村上隆
二〇一三年十一月一日
共立女子大学 文芸学部発行
東京都千代田区
一ツ橋二二二一

学芸部報に関する
ご意見・ご感想を
お寄せ下さい。
E-mail:
gakubuh@
kyoritsu-wu.ac.jp

大学随想

前身にて、文芸に携わるものは、前だけではなく、常に後ろを向いて生きているのだというのを聞いた。

だが、後ろを向くのはけっこう難しい。
最近(二〇一三年八月)のニュースから、中沢啓治の漫画「はだしのゲン」が松江市内の小中学校の図書室で自由に閲覧できなくなったという。市教委が昨年一二月、「旧日本軍がアジアの人々の首を切るなど過激なシーンがある」として、閉架措置を取るよう校長会に要請、全二〇巻を保有する三九校全てが応じた。後ろを向くと、そこには残酷な日本人がいる。

その残酷を生々しく伝える四六枚の写真が最近発見、公開された。中国上海近郊の村、銭家埠で、旧日本軍が実施した「抗日ゲリラ」掃討作戦を日本軍写真班が記録したものだ。部隊の出発風景から村の急襲、放火、捕虜への尋問、処刑後に埋められる穴を捕虜自身に掘らせた後、銃剣を刺す様子など、生々しく伝えられている。親子だね、私達も天使じゃない。

父ゆずりのイタズラとはかたが、父のせいにして二人で大笑いし、トロロンをもう一杯ずつお代わりした。
(向田保雄『姉貴の尻尾』昭和五八年、文化出版局)
さらに七年後、三十三歳になった邦子はラジオの構成台本の執筆を手がけるようになり、森繁久彌の番組の仕事をこなす。一昨年、日文研究室の半澤幹一先生から向田邦子研究会でまとめた『森繁のふんわり博物館』(昭和三十七年一〇月放送)の台本を見せていただいた。驚いたことに、そこでもまた敏雄によるどら焼きのいたずらがネタとして使われていた。

後ろを向いて生きるII

遠藤 耕太郎

だが、イザナキがそこに居たものは、美しいイザナミではなく、蛆が、むせび泣くように湧いた妻の死体であった。イザナミは「私に恥を見せたな」といって追いかけてくる。壮絶な場面である。やがて、黄泉の国とこの世界の境まで逃げてきたイザナキは、大きな石を置いて二つの世界を分断した。

死体を見、妻の現実の声を聞く。その結果、イザナキは再びこの現実世界に戻ってくる。今、私たちに求められているのは、後ろを向いて、残酷で狂気に満ちた日本を正視することである。そして、そこに死者の悲しみの、あるいは怒りの、あるいは狂気の声を聴くことである。その声が生きている我々を導いてくれるはずだ。

「はだしのゲン」や「抗日ゲリラ」掃討作戦の写真、被爆再現人形は私たちにどんな悲しみを訴えているのだろうか。どんな怒りをぶつけているのだろうか。
こうした死者の声を聴かずに、原発を再開し、目前の経済成長を論じることに意味はない。後ろを向いて死者の声を聴き、その声に導かれるように手にしたものが、文芸の知である。

(なお、松江市教育委員会には市教委事務局の手続きに不備があったとして、二〇一三年八月二十六日、閲覧制限を撤回した。)
授・日本古代文学)



ショーウィンドーのどら焼き

阿部 由香子



現在の文明堂銀座店

甘いものではどら焼きが好きだ。鯛焼きのようにどこから食べるか悩む必要はないし、カステラ生地とあんこの甘さはほっこりと優しい。庶民的なおやつであるところも私にはぴったりだ。
子供の頃、夏休みに田舎の祖母の家へ遊びに行くと仏壇には必ず「チーズ味のカール」が供えてあった。長生きした曾祖母の好物であったらしい。家へ戻ると「自分だから仏壇に何を供えてほしいか」という話題になった。縁起でもない話ではあるが、家族の誰かが若い頃だったから乗しかった覚えがある。母はスイカで父はそばだった。私は今だったらビールとどら焼きをお願いしたい。

懐かしい記憶と共に食べ物を円ぼと、どら焼きを買いこむ。魅力的に取り上げる名人、向田邦子の作品にもどら焼きが登場する。山本夏彦が選んだ向田エッセイベスト5の一つでもある「父の風船」の後半部分である。邦子が四十三歳の春に父親の敏雄が急逝した。その「葬儀やら後始末やら一段落して」ほっとした気持ちで久しぶりの銀座へ出かけたところ、文明堂の前で、店の人が出てきて

「すみません、父の供養をされているんです」といって許してくれないかな……他愛ない空想はこのへんで女店員さんの「いらっしゃいませ」の声で破られた。結局、私は何も買わずに歩きたしていった。
(父の風船『銀座百点』昭和四七年六月、『眠る壺』昭和四四年一〇月、講談社に収録) 父親の死を少し時間が経ったところで実感するエピソードとしては、やはり同じ年の春、京都へ桜を見に出かけた際におみやげとして敏雄の好物だった「このわた」をいつものように買いかけた出来事の方が哀しみを強く伝えている。(泣き虫)

「ヤッサン覚えてる? お父さんが若い頃、思ったよりも賞与が少なかつたので、ヤケおこして、ヤケ酒飲んでるうち、また思い出して癪にさわわり、どら焼きいっぱい買って、中のあんは食べたか捨てたか言わなかつたけど、皮を一枚一枚、閉まっている店のウィンドーガラスに貼り付けて逃げた話」と姉が言い出したのである。
「きつと几帳面なお父さんのことだから、そんな時でもどら焼きの皮を貼つける高きさんかそろえてたんじゃない。親子だね、私達も天使じゃない」

父ゆずりのイタズラとはかたが、父のせいにして二人で大笑いし、トロロンをもう一杯ずつお代わりした。
(向田保雄『姉貴の尻尾』昭和五八年、文化出版局)
さらに七年後、三十三歳になった邦子はラジオの構成台本の執筆を手がけるようになり、森繁久彌の番組の仕事をこなす。一昨年、日文研究室の半澤幹一先生から向田邦子研究会でまとめた『森繁のふんわり博物館』(昭和三十七年一〇月放送)の台本を見せていただいた。驚いたことに、そこでもまた敏雄によるどら焼きのいたずらがネタとして使われていた。

だが、イザナキがそこに居たものは、美しいイザナミではなく、蛆が、むせび泣くように湧いた妻の死体であった。イザナミは「私に恥を見せたな」といって追いかけてくる。壮絶な場面である。やがて、黄泉の国とこの世界の境まで逃げてきたイザナキは、大きな石を置いて二つの世界を分断した。

死体を見、妻の現実の声を聞く。その結果、イザナキは再びこの現実世界に戻ってくる。今、私たちに求められているのは、後ろを向いて、残酷で狂気に満ちた日本を正視することである。そして、そこに死者の悲しみの、あるいは怒りの、あるいは狂気の声を聴くことである。その声が生きている我々を導いてくれるはずだ。



Some of the enigmatic faces of Angkor Thom, Cambodia

美の旅

クリス・ホスキンス

本や映画、写真など、人の思を出を通して世界を見ることもいいのですが、しかし、自分自身の目で見たときの世界に勝るものはありません。快適な日常の外に出て、いつもの存在の境界を越えた経験にたどり着きます。そうすると人生はより深く、広く、他の方法からは得ることのできない意味を持つでしょう。
(教授・言語学/言語教育)

私は「すみません、父の供養をされているんです」といって許してくれないかな……他愛ない空想はこのへんで女店員さんの「いらっしゃいませ」の声で破られた。結局、私は何も買わずに歩きたしていった。
(父の風船『銀座百点』昭和四七年六月、『眠る壺』昭和四四年一〇月、講談社に収録) 父親の死を少し時間が経ったところで実感するエピソードとしては、やはり同じ年の春、京都へ桜を見に出かけた際におみやげとして敏雄の好物だった「このわた」をいつものように買いかけた出来事の方が哀しみを強く伝えている。(泣き虫)

「ヤッサン覚えてる? お父さんが若い頃、思ったよりも賞与が少なかつたので、ヤケおこして、ヤケ酒飲んでるうち、また思い出して癪にさわわり、どら焼きいっぱい買って、中のあんは食べたか捨てたか言わなかつたけど、皮を一枚一枚、閉まっている店のウィンドーガラスに貼り付けて逃げた話」と姉が言い出したのである。
「きつと几帳面なお父さんのことだから、そんな時でもどら焼きの皮を貼つける高きさんかそろえてたんじゃない。親子だね、私達も天使じゃない」

父ゆずりのイタズラとはかたが、父のせいにして二人で大笑いし、トロロンをもう一杯ずつお代わりした。
(向田保雄『姉貴の尻尾』昭和五八年、文化出版局)
さらに七年後、三十三歳になった邦子はラジオの構成台本の執筆を手がけるようになり、森繁久彌の番組の仕事をこなす。一昨年、日文研究室の半澤幹一先生から向田邦子研究会でまとめた『森繁のふんわり博物館』(昭和三十七年一〇月放送)の台本を見せていただいた。驚いたことに、そこでもまた敏雄によるどら焼きのいたずらがネタとして使われていた。

だが、イザナキがそこに居たものは、美しいイザナミではなく、蛆が、むせび泣くように湧いた妻の死体であった。イザナミは「私に恥を見せたな」といって追いかけてくる。壮絶な場面である。やがて、黄泉の国とこの世界の境まで逃げてきたイザナキは、大きな石を置いて二つの世界を分断した。

死体を見、妻の現実の声を聞く。その結果、イザナキは再びこの現実世界に戻ってくる。今、私たちに求められているのは、後ろを向いて、残酷で狂気に満ちた日本を正視することである。そして、そこに死者の悲しみの、あるいは怒りの、あるいは狂気の声を聴くことである。その声が生きている我々を導いてくれるはずだ。



どら焼きあるいは三笠山

邦子はきつとその場面を視覚的に思い描いては愉快な気持ちになつていたのでない。これほどまでに世の中が息苦しくなつてくると、少したけ風通しをよくするようないたずらの一つも出てこないかしらと思つてしまつたが、若者がスニーカーの冷蔵庫に入つてみせた写真は見せびらかしているようなのは寒々しくなるばかりだ。いたずらといふしよに私たちがまた何か一つ手放してしまつたのかも知れない。
(あへ、ゆかこ 准教授・日本演劇)



上野—黒田記念館

山本 聡美

美術史学になぞらわる者にとつて、上野は特別な意味を持つている。現在の黒田公園は江戸時代には寛永寺の境内であったが、戊辰戦争によって伽藍は焼失、その跡地に博物館が建設されたのが、明治十五年(一八八二)のこと。以来、大正十五年(一九二六)の東京都美術館(開館時は東京府美術館、昭和三十四年(一九五九)の国立西洋美術館、昭和四十七年(一九七二)の国立近代美術館など、上野公園内にある文化施設に勤務している人々、あるいは東京藝術大学の出身者が時折自らを「上野の住人」と呼ぶ。文化創造・発信の場に日々を送っていることへの矜持であろうかと、そのような場所の縁のなかつた私は、いつも羨ましく聞いている。ただ、ほんの一時、上野の一隅にわが身を置いていたことがある。

東博と藝大の間、国際子ども図書館の隣に、黒田記念館と呼ばれるクラシックな建物があるのを存じだろうか。日本近代洋画の基礎を築いた黒田清輝(一八六六—一九二四)の遺産を用いて、昭和三年(一九二八)に建設された。昭和五年(一九三〇)には、この建物内に、美術・芸能・保存科学の研究を行う美術研究所(現在の東京文化財研究所)が設置され、東博の敷地内に新館が建てられる平成十二年(二〇〇〇)まで、ここで業務を行っていた。私は大学院生時代にこの研究所でアルバイトをしており、一九九〇年代の終わり、まさにこの建物が研究所としての業務に使用される最後の時を、ここで過ごした。上野の住人とは言葉にないが、黒田記念館という夢のような建物の下宿人ではあった。

黒田記念館内観
画像提供元 東京文化財研究所

設計は、戦前の歌舞伎座などを手がけた岡田信一郎(一八八三—一九三三)。東西にまたがる歴史的建築様式を加味した建物を、鉄筋コンクリートという近代建築の手法で建てることを得意とした建築家である。黒田記念館は、西洋風の外観を持つ二階建て。正面二階部分はルネサンス風、連続するアーチ窓と計八本の列柱がシンメトリカルな美しさを生み出している。一階部分の正面玄関扉上部に取り付けられた半円形のレリーフには、アールヌーボー様式の植物文様。

この建物が業務に使用されなくなつて久しいが、その後、黒田記念館として、東京国立博物館の管理の下で再利用されている。現在は耐震補強の工事中で、残念ながらしばらく内部を見学することはできないが、再開されたらぜひ足を運んで欲しい。近代日本を切り開いた画家や建築家、美術研究の歴史を担う研究者たち、そして将来を夢見る学生たち。百年になんかとする時間の中で、この建物が見守ってきた人々がいる。近代建築の文化遺産として、装いも新たに生まれ変わりつつある黒田記念館を眺めながら、建物の床が傾くほど本が積み上げられた、かつての書庫を懐かしく思い出す。

(やまもと さとみ 教授・日本美術史)

入口を抜けると、天井の高いエントランスホールがあり、壁や柱の随所に施された漆喰の花飾りが上品な華やかさを演出している。二階へ続く階段の手すりには、玄関レリーフと同じモチーフをあしらった鋳造を用いた高いデザイン性と職人技とが見事な交響曲を奏でている。建築家は、古今東西の建築に学びながら、異なる時代の様式と技術を混濁させ、時代を超越した一棟を上野の森に出現させた。木の床と漆喰の壁が醸し出す、どこか湿りを帯びた静謐な空気は、「近代日本」という時代の息吹そのものであったのだらう。

この建物の隣になった私は、文字通りこの研究所に入り浸った。週三日か三日は終日アルバイトに通つて、図書の整理や、研究所の出版物を準備するための作業を手伝い、勤務時間が終わると、書庫に自由に入らせてもらった。研究の第一線で活躍する研究員たちの議論に聞き耳をたて、研究所にやってくる内外の研究者たちの活気に触れるのは、刺激に満ちた日々だった。そしてもうひとつ、この研究所の魅力の一端を担っていたのが、司書として勤務されていた、私の上司である。彼女は、なんと共立女子大学・文芸学部卒の卒業生で、現在に至るまで私にとっての理想の女性であり続けている。仕事ができて、芯が強く、優しく、どんな時も明るく振舞うことができる。研究所に集まってくる、将来が不安な大学院生たちにとって、彼女は太陽のような存在であった。

日常見慣れた街の風景も、よく目を凝らすとそこにはさまざまな不思議な物体が顔をのぞかせています。街を歩き回りこうした存在を探る活動を「路上観察」といい、私は大学時代、先輩や友人と共にこれに熱中し、一時卒業が危うくなるほどでした。そしていまは街中で変わった物を見つけたら、つい写真を撮ってしまします。そこで今回はそんな物の中から最近出会った不思議な看板をご紹介します。と思います。まず写真①をご覧ください。

①「mamsh」に注意 5月6日にmamshが出ました。この看板の不思議な点は日付入りであることです。単純に考

都市の「変」境への いざない

國分 建志

「きのう・今日・あした」と聞いて一番に思い浮かぶのは、四歳児クラスを受け持つ、フランス語の子どもの話。授業で「きのう(きょう)」「あした」の意味することが分からなことも多い。すぐに適当な言葉が思い浮かばないこともありますが、私は言葉を探すと、えれば「この付近は昔にはmamshもずっとこの場所、かつて五月六日にmamshが出たことを人々に伝え続けるのでしょうか。次は少女品のない看板の、お食事中の方などは飛ばしになります。この看板はこれからお読み下さい。」

②100m以内ゲタ多発地帯 ゲタ注意
もしこの言葉が本なら、この付近に足を踏み入れるのは相当危険です。何しろこの看板の周囲一帯は地雷原のようなものです。「ゲタ注意」と書いたところで、そもそもこの地点まで無傷でたどり着けるかどうかも分かりません。それにしてもこの種の看板を出すなら、常識的にはゲタをする不届き者に向けて「路上ゲタ禁止」などと書きさうなものでしょうか。これはかつて神保町駅にあった看板ですが、一箇所おかしな所があります。さて「この時」はいつなのですか？

「この時」とはいつなのですか？
この言葉は古い団地の案内図に書かれていたのですが、いったい誰が何のために書いたのかさっぱり分かりません。「この時」とはいつなのですか？

研究紹介
奥 彰子
「ユーゴの亡命作家によるアンチ・ユートピア小説」『ハヤカワ・ミステリマガジン』七月号
「物語を紡ぐ名前」『図書』七月

子どもの世界

勝田 聖子

「きょう・今日・あした」と聞いて一番に思い浮かぶのは、四歳児クラスを受け持つ、フランス語の子どもの話。授業で「きのう(きょう)」「あした」の意味することが分からなことも多い。すぐに適当な言葉が思い浮かばないこともありますが、私は言葉を探すと、えれば「この付近は昔にはmamshもずっとこの場所、かつて五月六日にmamshが出たことを人々に伝え続けるのでしょうか。次は少女品のない看板の、お食事中の方などは飛ばしになります。この看板はこれからお読み下さい。」



赤カブの芽

「橙ねる」と「棘く」の違いを考えた。意識して言葉の意を考えたのは初めてだった。恥ずかしいけれど、言葉での表現を面白く感じたのは大学時代だった。朝になると次の日が始まるという事は感じているよすがだが、感じているよすがが言葉が結びついていないようである。

子どもと話す時には、子どもに分かるようにと心掛けています。子どもの分かる言葉を選んで話す。自分の伝えたいことを適切に表現する言葉を選ばなくては、子どもの理解に合わせて伝えることが必要です。授業でフランス語の例文を日本語に訳した時、私は「車が撥ねる」と訳した。他の人は「車が轢く」と訳していた。私は地面を歩く蟻やダンゴ虫を見み取るのが面白かった。子ども達と過ごしているうちに、私にとっては何気ない風景の中で子ども達は色々な発見をしていることに気付く。言葉から文字通りの意味以外のことを読み取るのが面白かった。

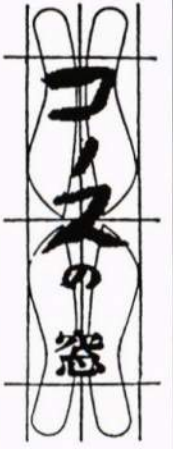
子どもの世界は広がっていく。世界も広がっていく。平成十八年度 文芸学部 仏文学コース卒業

「mamsh」に注意
5月6日にmamshが出ました。
この看板の不思議な点は日付入りであることです。単純に考

880㎡の多
検索

「変」境の希少物体
次は看板そのものではなく、そこに書かれた落書きにご注目下さい。

研究紹介
奥 彰子
「ユーゴの亡命作家によるアンチ・ユートピア小説」『ハヤカワ・ミステリマガジン』七月号
「物語を紡ぐ名前」『図書』七月



〈劇芸術〉

コースの皆さんへ

平成二十五年三月をもって石井藍子助手が退職され、後任として私、板谷安子が着任いたしました。よろしくお願ひいたし

〈造形芸術〉

ガッツしよう

二年生の皆さん。専門の授業が増え、大学で学ぶ面白さが増してきた頃と思います。より多く

「現代美術、わからない!」造形コースの学生さんからさ

プロフィール

福嶋 伸洋先生 (専任講師)

今年度より文芸学部に着任されたばかりの福嶋伸洋先生

今年度より文芸学部に着任されたばかりの福嶋伸洋先生。主にポルトガル語圏の文学を中心に研究されている



福嶋伸洋先生

現するの、音楽の語り方。また、音楽の語り方。また、音楽の語り方。また、音楽の語り方。

フランス語フランス文学

読書の楽しみ

春から秋にかけてイベントが目白押し。フランス文学の魅力を伝えるために、様々なイベントを開催しています。

日本語日本文学

旅行けば...

今年の研究旅行は、三月十七日から二十三日、総勢約三十名で岡山に出発しました。

文芸教養

ブックマラソン

大学生に読んでほしい〇冊、夏に読みたい〇冊。冊数を決めて読書と呼びかける企画は少な

文芸メディア

苦しいが楽しい授業

文メモコースの選択必修科目である「DTP基礎実習B」で

英語英米文学

共同作業

グループ発表のレジュメを作成したいけれど、ペアの〇さんと連絡が取れない。

教職課程

カリキュラムの移行

平成二十四年度入学生から新たに「情報」科の教員免許課程がスタートしています。

司書課程

移行期に当たって

司書課程は平成二十四年度入学生より新カリキュラム(以下新カリ)に移行、今年度の二

ひと言ふた言

体育の科目名変更について

平成二十五年から教養教育の体育は、セメスター制(半期制)に切り替わった。

大学院文芸学研究科情報

将来の夢がなかった時、偶然と大学院に入学した。二年間、学部生時代に経験

「入試は来年二月です。」